



世界の地域から

© Laurent Berthier

リヨン市（フランス共和国）



© Marie Perrin



© Muriel Chaulet



街の東西を流れるソーヌ川（左写真）とローヌ川（右写真）。
対照的な河岸の風景が見られます。

リヨン市はフランス東部ローヌ＝アルプ州の中心都市で、フランス第2の規模となる約132万人の都市圏人口を誇ります。古くから絹織物産業や金融業で栄え、「美食の都」としても知られています。

ソーヌ川とローヌ川の2つの河川が街の南部で合流し、ソーヌ川の両岸には「リヨン歴史地区」としてユネスコ文化遺産に登録された美しい旧市街、ローヌ川の東側には近代的な高層ビルが建ち並ぶ地区が広がっています。また近年は、川の合流地点のコンフレュアンス地区で大規模な再開発が行われています。

日本との関わりは古く、19世紀から絹産業を通して横浜市と交流し、1959年に姉妹都市提携を締結。2014年に提携55周年を迎えました。

= CLAIRメルマガ読者募集中！ =

観光、物産、交通、IT、環境など海外お役立ち情報満載のメールマガジンを好評配信中
右の二次元バーコード、または“CLAIRメルマガ”で検索、登録をお願いします





リヨン市民の胃袋を支えるポール・ボキューズ市場。

© Jacques Léone



旧市街とフルヴィエール大聖堂。

© Tristan Deschamps



再開発が進むコンフリユアンス地区。

© www.b-rob.com



リュミエール博物館には、映画の発明者リュミエール兄弟の撮影機器などが展示されています。

© www.b-rob.com



TGVの駅があるパールディユ地区は高層建築が集まる近代的なエリア。

© Jacques Léone

市民の足となっているコミュニティサイクルのVélo'v。約4,000台が整備されています。



低床車両を導入したトラム。1日平均の利用客は24万人を超えます。

© Jacques Léone



© Jacques Léone